基本計画の概要

拓殖大学発祥の地として多くの歴史を刻んできた文京キャンパスですが、古くは昭和7年に建設されたA館（本部棟）をはじめ、昭和30年代から40年代に建設された教室、図書館、研究室、学生関連施設が混在し、いずれの施設も狭隘・老朽化が進んでいました。

そこで、平成12年の創立100周年を機に、「拓殖大学ルネサンス事業」の具現化の一環として、本学建学の理念を受けた学統の発展継承である、文京キャンパスの整備事業を推進してきました。基本となる施設整備方針に則り、文京キャンパスの歴史性・シンボル性を残しつつ、新たなキャンパスの顔が誕生しました。

整備事業のコンセプト

■100年の伝統の象徴
・A館の保存と現代的な建築との融合。

■新キャンパスの顔づくり
・中央広場と図書館・教室棟を
新しい建築のシンボルとしてデザインする。

■防災と省エネルギー対応型のキャンパスづくり

■センターモール（キャンパスリンク）
・学生の主要動線となる
立体的なにぎわいのあるモールとして整備する。

■地域交流の場としての中央広場
・キャンパスの広場であると同時に
周辺地域のための都市広場として交流の場を提供する。

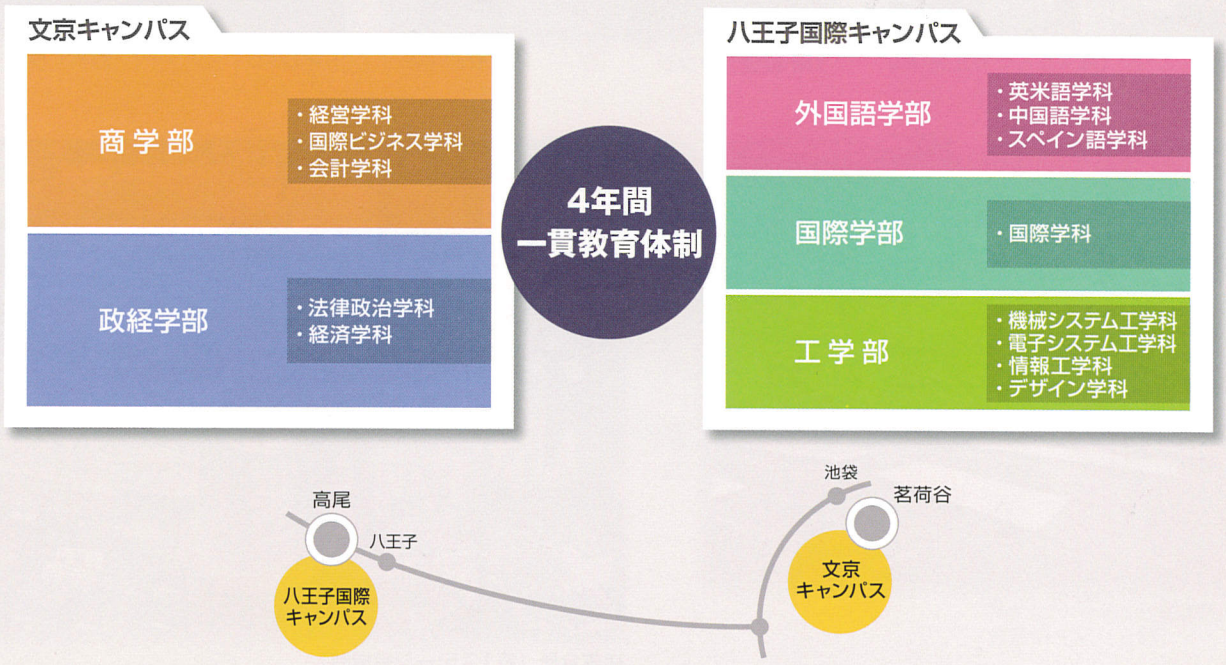
整備事業のステップ

整備事業は、第1ステージから第3ステージまで3つのステージに区分し、各ステージ、「解体工事・建築工事・移転」をひとつの整備サイクルとして進めるローリング計画で推進してきました。

第1ステージ ▶▶▶▶ 第2ステージ ▶▶▶▶ 第3ステージ

工 期：平成17年12月～平成20年 1月
工 期：平成21年 3月～平成23年12月
工 期：平成24年10月～平成27年 1月

キャンパス再編の基本的コンセプト

1. キャンパス再編は、単に商学部・政経学部の1年生・2年生を文京キャンパスに移転することだけではなく、大学全体の教育力（教育の質）の向上、学生募集力・就業力等の強化・充実等に繋げます。
また、都心型大学としてのメリットを諸施策として展開することにより、活力ある大学をめざします。

2. キャンパス再編により、全学部がそれぞれのキャンパスにおいて4年間の一貫教育を行う体制が整いました。これまで商学部・政経学部は2キャンパスに分離された状況で学部教育が行われていましたが、同一キャンパスでの一貫教育がなされることの意義は大きいものがあります。
また、文京キャンパス整備にかかる学部再編は、本学の建学の理念に則った大学の目的と使命および教育目的、さらには教育の基本方針（3ポリシー：アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）等を踏まえた「学生本位の教育」を実現するための絶好の機会でもあります。グローバル時代に対応した具体的な教育の諸展開とさらなる質の確保のために、カリキュラムの改善と教育力（授業力）の強化を図ることができる教学体制の確立に向けた改編を行います。